

造影剤を用いるMRI検査を受けられる方へ

今回予定されているMRI検査は、「造影剤」という薬剤を注射して行います。

造影剤を用いることにより、病気の状態をより正確に明らかにし、今後の治療に役立てることができます。静脈内に注入された造影剤は、血管を介して全身の臓器に分布します。したがって、適切なタイミングでMRIを撮像すると、血管の状態、臓器の血流状態、および病変での造影剤の分布がわかり、画像診断上重要な情報となることがあります。

MRI検査は造影剤を使用しなくても行えますが、造影剤を用いずに撮影した場合には、異常を見落とす場合があります。

◆副作用の種類や発生頻度

MRI用の造影剤は安全な薬ですが、まれに副作用が出現することがあります。

◎軽い副作用

はきけ、動悸、頭痛、発疹、皮膚のかゆみなど(約100人につき1人)で、ふつうは特別な治療を要しませんが症状によっては抗アレルギー薬を投与する場合があります。

◎重い副作用

呼吸困難、意識障害、血圧低下(1万人につき5人以下)。このような副作用は点滴、昇圧剤、ステロイド剤、抗アレルギー薬などによる治療が必要です。また、極めてまれ(約100万人につき1人)ですが死亡事故の報告があります。

重い腎臓障害のある方にMRI用造影剤を投与した場合、投与後数日から数ヶ月、時に数年後に皮膚の腫張や硬化、疼痛などの症状で始まる「腎性全身性線維症」という病気を発症することがあります。腎臓の病気をお持ちの方は、必ず医師にお申し出ください。

残念ながら、こうした副作用が発生するか否かを事前に知る方法はありません。また、前回の検査の際には異常がなくても、副作用が出る場合があります。

◎造影剤の注射によって

なお、造影剤を注入するために、血管外に造影剤がもれることがあります。この場合には、注射部位がはれて痛みを伴うこともあります。基本的には、時間がたてば吸収されますので心配ありません。もれた量が多い場合には、別の処置が必要となることもあります。まれです。

(裏面につづく)

◆検査中のお願い

検査中は検査担当者とマイクを通じていつでも会話できます。

気分が悪くなった場合は、検査中であっても必ずお知らせください。

当院では万一の副作用に対して、万全の体制を整えて検査を行っています。もし異常を感じたら、ためらわずにすぐにお申し出ください。

わからないことがありましたら、主治医または放射線科担当者に遠慮なくご質問ください。

医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
放射線科 直通TEL 0566-25-2982